

平成23年度第1回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成23年5月23日(月)

13時40分～15時40分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会会長

3 会議成立の報告（事務局）

委員26名中19名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
(協議会規約第6条第2項)

4 協議事項（議長：会長 協議会規約第5条第2項、第6条第1項）

(1) しなの鉄道活性化協議会規約の一部改正について

事務局から「資料1」を説明

(質問・意見等なし)

原案のとおり可決。

(2) 平成22年度しなの鉄道活性化協議会事業報告について

(3) 平成22年度地域公共交通活性化・再生事業に関する事後評価（二次評価）について

(4) 平成22年度しなの鉄道活性化協議会決算について

事務局から「資料2」、「資料3」、「資料4」を一括説明

監査報告：監査委員から出納監査結果を報告。

(質問・意見等なし)

報告のとおり一括して承認。

(5) 平成23年度しなの鉄道活性化協議会事業計画(案)について

(6) 平成23年度しなの鉄道活性化協議会予算(案)について

事務局から「資料5」、「資料6」を一括説明

(質疑・意見等)

<議 長>

・平成23年度は地域との連携を一つのキーワードに様々な事業展開をしていきたい

と思っていますので、そういったことを含めてご意見をだしていただければと思います。

ア 負担金の中身ですが、沿線市町がどの位拠出することになっているのですか。

<事務局>

- ・それぞれ実施をする事業ごとに関係する団体あるいは自治体に負担をお願いする中身になっております。例えば軽井沢～小諸間の実証運行につきましては沿線の自治体であります軽井沢町さん、小諸市さん、御代田町さんの3市町さんからご負担をいただくという中身になっております。多いところで、小諸市さん、軽井沢町さんには実証運行に係る費用として700万円前後を想定している中身になっております。その他企画列車の運行企画切符の発売また接続情報の提供につきましてはしなの鉄道が実施をするということでしなの鉄道が負担をしていく部分が多くなっております。また、沿線イベント情報の発信ということで、具体的には車内中吊り広告を出していくわけですが、これにつきましては実際に中吊り広告を出される自治体さん、観光団体さんにご負担をいただくことを想定しておりまして、1か所あたり概ね12万円程度の金額になるかと思います。

<議長>

- ・小諸～軽井沢間の増便実証運行も23年度はいよいよ通年化するわけですが、昨年度の経過を踏まえてそれを十分検証しながらより良い形を模索していきたいと思っておりますが、小諸市・御代田町・軽井沢町さんはこの点についてご意見いかがでしょうか。

イ 一昨年始めた事業の2年目ということで、引き続き行ってまいります。そんな中で当初から私ども3市町の方でこの事業については地域の皆さんの足を確保するというだけではなく、地域の活性化あるいは地域と都会をつなぐという意味で大きな期待をしながら進めている事業でございます。特に小諸市では新幹線の最終便の接続を実証実験として是非やって欲しいという要望をしながら続けさせていただいている。引き続きこの事業について今年度、来年度と3年間ということでお願いをしながらやっていきたいと思っております。

ウ 小諸市で包括して話していただいたが、3年間の実証実験ということですが、ただいま小諸市からも話がありましたが、新幹線の最終接続が良くなって非常に便利になったという声が町役場にも寄せられている。できれば3年間で終わらせないでずっと継続してやっていければいいかと思えます。

エ 御代田町も同じです。

<議 長>

・昨年8月から増便実証実験をやっておりますが、なかなか利用者が目に見える形で増加しているということではないのですが、しなの鉄道全体の（乗車）率と比べますと小諸～軽井沢間の率の方がやや良かった。そういった意味では若干なりとも効果が出ていると思います。ただ、3月は大地震の影響がございましてその区間が他の区間以上に落ち込んだということもございます。いずれにしてもダイヤが地域に定着して輸送人員に跳ね返っていくということに関してはある程度のスパンが必要であると認識していますので、中期的あるいは長期的な視点でみていきたいと考えています。

・他にご意見ありませんか。

（他に意見なし）

他に御意見がないということで、事業計画、予算についてはご了解をいただいたということでよろしくお願いをいたします。

（平成23年度事業計画並びに予算 決定）

（7）地域としなの鉄道との連携について

事務局から「資料7」説明

<議 長>

・地域としなの鉄道の連携ということで、ローラー作戦の提案を含めて考え方を披露したわけですが、地域との連携については、2月の会議でフリートーキングをしまして、皆様方の様々なご意見をいただきました。今日の資料はそういったご意見を踏まえて作ったもので、ご案内のようにしなの鉄道の利用人員は右肩下がりでありまして、1千万人を切るかきらないかというところに来ているわけですが、しなの鉄道の中期5カ年計画の中でも経営目標として1千万人以上をキープして、さらにそれ以上を目指すということを掲げてございますので、そのためにさまざまなものを展開していくことを考えております。事業者だけの努力では限界があるため地域との連携をより緊密にして、こういった施策を進めていくことを考えておりまして、そういった認識のもとに今回このような提案をさせていただいた訳でございます。皆さまにご協力をお願いしていかなければならない部分ですので、これは案でございますから、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（質疑・意見等）

オ 篠ノ井イヤーということで、今年は篠ノ井駅も絡むということで、篠ノ井地域で一生懸命やっている。資料を拝見させていただいて、この案は案でよろしいかと思うのですが、今後研究・検討をしていただければと思うのは地域の住民との連携というものがここにはお見受けできない。そういった面では私たちの経験からして動き始めるのに大変時間がかかる。ただ、いったん動き始めてしまうといういろいろな面でいよいよ機能することが多い。そういったことを研究・検討していただきたい。

カ 気になったことがございまして、申し上げてみたい。学校の関係でマイカー送迎から列車の通学への転換を要請するというようなことが計画にあるのですが、なかなかマイカー送迎を一度経験された子供さんというのは他の通学方法に転換することが難しいと言われております。はたしてお願いだけで列車通学に切り替えられるかというところに疑問があるところがございます。具体的にどんな風に対応をするのかわかりませんが、相当本気で取り組まないとなかなか戻ってこないのではないかという気がいたします。

<議 長>

- ・ こうしたらよいのではないかという知恵があれば是非お伺いしたいのですが、私どもが聞いているところによりますと、部活動で夜もかなり遅くなるということがあって、朝通学するときには列車を利用して帰るのだけれど帰りはなかなか列車利用というわけにはいかないので、帰りはマイカーで迎えに来てもらって帰るということになっている。すると通学定期が割高になるということで、通学定期を使わなくなる。そこで、そのためにそこにも書いてありますが、新たな通学割引の回数券みたいなものを設定して、そういう場合には回数券を使った方がお得なのだというのを一つの手段として考えてみてはどうかと思っております。

キ 東御市としても街づくりの拠点は田中駅であると認識しておりまして、平成18年当時駅前広場整備をさせてもらい、2～3年ほど前には田中の南口の方からも商店街の方にお客を誘導できないかということで自由通路等の新設事業も行ったところですが、なかなか中心市街地の活性化というものは進んでいないというのが現状でございます。そういう中でしなの鉄道さんとも同じ方向を向いていると思いますので、今後も、活性化について考えていきたいと思っております。今回提案されています地域の皆さんの支援をうけながらの交流というものは必要だと思いますので、沿線の市町という立場で一緒に地域の皆さんと結びつく形でいけるのが、如いては利用者数の増加に繋がるのではないかと思いますので、こちらの方としても協力させていただきたい。

- ク 今すぐには実現できないかも知れないのですが、マイカー通学から列車通学への転換ですとかウォーキングマップをみて考えたのですが、例えば今年県の方で次世代自動車普及促進協議会なるものが設立されて、電気自動車を普及させようというような考えがあると聞いたのですが、例えばしなの鉄道沿線の市町の駅のレンタカーにEVを置いてもらって、首都圏の方から新幹線～しな鉄～EVで信州を観光してもらうというゼロエミッションとまではいかないのですが、究極のエコツアーを組んでアピールしてみると面白いのかなぁと思いました。
- ケ 環境問題、特に今回電力の問題も絡んでさまざまに、今年の夏も相当脚光を浴びると思われれます。ただEVも今松本市で具体的な電気自動車の導入動きを見せているが、それぞれ核となるところがないと難しいところがございます。沿線の市町でも、観光の活性化、地域の振興といった観点でご検討をいただければ少し踏み出せるのかなぁという気がいたします。
- コ 1千万人以上確保ローラー作戦の中の企業へのローラー作戦。週に一度でもノーマイカーの設定をすることを企業に呼び掛けてしな鉄の利用促進に結び付ける。というのは案外いいかなと思っておりまして、御代田町のミネベアの実例なんですけれども、徒歩・自動車通勤を奨励しております。徒歩自転車通勤をした社員に対しては通常の通勤手当よりも少し多めの手当を出している。なぜそんなことをするのかというと駐車場対策なのです。どこの企業も駐車場の借地代に頭を悩ましているようです。それに比べれば徒歩・自転車通勤の方が非常に助かる。ということがあるようです。で考えたのが、例えば、週一回の場合、ミネベアでは毎日ですが、ある程度社員がローテーションを組んで駐車場の面積を減らすことができる。ということになると、定期券よりは状況によっては特別割引の回数券、通学だけでなく通勤にも適用できるようなものを考えていただくことも必要かなと思います。いずれにしても御代田町のミネベアはものすごく徒歩通勤が増えています。他企業も駐車場対策に頭を痛めていますので、結構（話に）乗ってくると思う。また企業だけでなく行政にもノーマイカーを呼び掛ける必要があると思います。
- サ 学校の場合、沿線小中学校に対して社会見学の利用をというのがありますが、私は塩田なのですが、上田交通の場合もこういうことを盛んに呼びかけはしているのですが、社会見学の場所によっては学校の職員にしてみるとバスで動いた方が安全（対策）上も楽だというようなことも聞きます。ですからここに長野ですとか軽井沢にいくとか目的地はいろいろありますが、しなの鉄道を使いたいコースが発表されて、さらにバスよりも安いというようになれば学校の方も考えるかなと思うのですが、教育委員会の方でもいろいろやっているようなのですが、なかなか実現しないというのが実情のようなので、モデルコースを是非考えても

られればと思います。

シ 旅行観光団体のローラー作戦について、昔実施したお座敷列車で横浜にいったことが頭に浮かんだ。列車内での催しとして一斗樽を持ち込んだとき、ドアから入らなくて逆さにして入れたというようなことがあったが、最終的には97人集まり、その中で踊りをした。非常に盛り上がった。お座敷で演芸をやればお客も増えるのではないか。

ス やること自体はこれからメニューで増えていくので、皆さん途中でもアイデアを出していただいて是非積極的にやっていただければと思うのですが、地域との連携ということで、しなの鉄道とやっていただくことは非常にいいことだと思います。ローラー作戦のような形で企業を回ったり学校を回ったりということになると地域の皆さまのタイアップが重要になりますので、今日御集りのみなさんにも是非ご協力をいただきたいと思っておりますが、ひとつお願いは、回って歩いた時に出せられる意見とか感想とかいったものをしなの鉄道で受けて変えていかなければいけないこともあるでしょうし、地域としてもしくは県として取り組まなければいけないこともあると思いますので、フィードバックの部分を是非大事にして先ほどのミネベアの話がありましたけれど、どこかの企業でこうなればうちもやれるというような話があれば、それを解決する方向でこの協議会の中で話合って変えられることを変えていければと思いました。

<議 長>

- ・ただいま様々な意見をいただきましたので、ご意見を踏まえて検討をして皆さんに御相談をしながら実行に移していきたいと考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。

(8) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金について

国土交通省北陸信越運輸局鉄道部から「資料別冊」説明

<議 長>

- ・新しい制度には現在やっているような増便事業といったソフト的な事業は対象にならないということですね。

<国土交通省>

- ・鉄道に関しましては活性化という意味合いのもの、あるいは鉄道事業的なものにつきましては補助がなくなったというのが正直なところでございます。

(9) 生活交通改善事業計画について

事務局から「資料8」説明

セ 確認をさせていただきたいのですが、沿線自治体の費用負担については応分な負担というものを考えておりますけど、その割合の決定については、沿線の（市町担当）課長会議で決定したものを協議会で受けて計画を作るということによろしいのでしょうか。

<事務局>

・負担割合についてはこれまでの流れを踏襲するような形を考えておりますが、まず最初に沿線自治体の皆さんの担当課長会議の場というものを考えておりますので、その中にご議論をいただきましてそれを踏まえた形で活性化協議会の方でその議論の採決をしたいと考えております。

ソ 今までの流れを踏襲するという話ですが、私どもが前任者から聞いて知っていることでは、設立当初から平成13年頃までは沿線自治体からの距離割でやっていた。それ以降の平成14年度にいったんこれでやってくれないかということで長野県の方から要請があって以降、2～3年それでやった。途中で私どもの方でそれはちょっと待って下さいというお話をして今日に至っている。確か17年から以降は補助していないはずですが、そこら辺のいきさつがあるのですけれども、沿線の課長会議の場でしっかりとかけて、しなの鉄道さんの活性化協議会でお示しをしていくという流れになると思いますので、そういったことを踏まえていただきたいと思います。

<議長>

・それらを踏まえて事前に十分ご相談をし、場合によっては（沿線）市町の課長会議などで議論していただいて、方向が出たものを活性協の場であげるというようなことも考えてみたいと思います。

タ 協調補助の中には、県の補助は見込まないのかどうなのか、仮に県の補助も想定するようであれば、今の沿線市町の担当課長レベルだけではなくて、県も入っていただかなくてはならないと思うのですが、その辺は制度的にどのようなのですか。

<事務局>

・協調補助の中に県のご支援も想定しています。沿線市町担当課長会議という名称を付けておりますが、こちらには県の皆さんにもご参加いただいて、一緒に御協議をいただいていくということを考えております。

<議 長>

- ・他にございませんか。予定していた議題は以上になりますが、全体をとおして何かございますか。なければちょうど時間が参りましたので、以上で活性化協議会を閉じたいと思います。

5 閉 会

以 上